

財務諸表を読む力

ビジネスマンにとって財務諸表を読む力は基本的なスキルと言われています。財務諸表の読み方にはいろいろな考え方がありますが、ここでは“史上最強の投資家”と呼ばれるウォーレン・バフェットの考え方をご紹介したいと思います。

バフェットが投資するのは「永続的な競争優位」をもつ企業です。そして、バフェットは財務諸表の次のような特徴が永続的な競争優位の現れと考えているのです。

☆バフェット流の財務諸表のチェックポイント

〈損益計算書の読み方〉

1. **粗利益率が高い** : 一般的に粗利益率 40%以上の企業には何らかの競争優位がある
2. **販売費・一般管理費が低い** : 販管費が高い企業は厳しい競争に苦しんでいる
3. **多額の研究開発費を必要としない** : 常に新製品を必要とするビジネスモデルは長期的には弱い
4. **純利益が右肩上がり** : 純利益の上昇トレンドは永続的競争優位の証
5. **一株当たり利益が高い水準で推移** : 経営の効率性が持続できている

〈貸借対照表の読み方〉

1. **「現金及び現金等価物」が十分にある** : 手持ちの現金は最大の武器
2. **売上高に対する売掛金の割合が低い** : 売掛金が少ない企業は得意先への交渉力が強い
3. **内部留保が長期的に増加** : 自己資本は永続的競争優位の証
4. **株主資本利益率が高い** : 経営者の手腕が優れている証
5. **負債の多い（レバレッジをかける）企業を避ける** : 短期で好業績でも長期的なリスクがある

〈キャッシュフロー計算書の読み方〉

1. **資本的支出が少ない** : 巨額の投資（資本的支出）を伴う事業には長期的なリスクがある
2. **自社株を継続して購入** : 上場企業にとっては株主にメリットがある。

バフェットは「あらゆる富を生み出す永続的競争優位性のうち、重要なのは“永続性”の部分である」といいます。

例えば、コカ・コーラ社はずっと同じ製品を売り続けています。製品の一貫性が収益の一貫性を生んでいるのです。製品を定期的に変更する必要がなく、研究開発や設備に巨額の資金を必要としません。バフェットは永続性の裏にはこうした「一貫性」があると考えていました。